



# 香住の足跡～矢田・下浜～

矢田川と日本海の境目、矢田。香住温泉の源泉地、下浜。  
それぞれにあたたかいもてなしの宿が軒を連ねます。  
静かな路地を歩けば、どこからともなくご飯の支度の匂いが漂い、  
懐かしい子どもの頃に戻ったかのような錯覚を覚えます。  
港町の歴史の詰まった町並みを、ゆったり歩いてみませんか？

**帝釈寺**

天武天皇の時代、下浜枕ヶ崎に流れ着いた帝釈天を祀ったことを起源とする古刹。脇仏の木造聖観音立像は、法相宗開祖 道照上人の作と伝わり、国の重要文化財に指定されています。江戸時代初期作庭の枯山水庭園は、その作風から数寄者 小堀遠州を思わせる、石組のすばらしい名園です。

**西迎寺**

高木城（戦国時代下浜にあった山城）主の菩提寺。境内の湧水「洗心甘露水」は、江戸時代から一度も枯れる事のない名水です。海に近いにもかかわらず塩分を全く含まない清らかな水で、その昔、酒造りに使用されていたと伝わります。「力石」は昔、青年たちが持ち上げたり担いだりと、力比べを競ったとされ、持ち上げられると願い事が叶うといわれています。

**矢田・下浜に伝わる切ない昔話****1. 矢田の美青年のお話（唐田神社）**

江戸時代のお話。矢田村に「唐田の義太夫」という美青年がいました。義太夫を慕うものは多く、奉公先の京都 鷹司家の姫もその一人でした。姫は義太夫が郷に帰ってしまってからも彼の事が忘れられず、ついには家を飛び出して、単身矢田を訪れました。姫は義太夫を探した末、道に迷い、滝壺に落ちて死んでしまいます。それを嘆き悲しんだ義太夫もやがては衰弱死し、二人の死を哀れに思った村人は唐田神社を建てて靈を弔いました。悲恋の末、死後ようやく一緒になった二人を祀る唐田神社は、今では縁結びの神様です。

**2. アゴなし地蔵のお話（パパ落とし・地蔵鼻）**

姥捨ての伝承は全国各地に残っていますが、下浜の地蔵鼻も別名「パパ落とし」といって、悲しい歴史のある場所です。地蔵鼻の先端には「アゴなし地蔵」と呼ばれる地蔵尊が安置されています。この地蔵尊は、享保年間に隠岐の島より貰い受けたものです。口減らしのために命を落とした老人たちが、西方にある極楽浄土まで道に迷わず辿りつけるようにと、浄土と同じ西の方角にある隠岐の島のお地蔵様を道標として建てたといわれます。「アゴなし地蔵」の呼び方が、いつ頃からなのかは不明ですが、歯痛を治すお地蔵様としても有名です。あまりにも古くなつたので、昭和30年代に新しい地蔵尊が設置され、今に至っています。

